貴州省・湖南省苗族住居の基本構成の考察

坪郷英彦

1　はじめに

中国貴州省及び湖南省にまたがる地域には苗族が広く居住している。苗族の住まいは木造の 2 階又は 3 階建てで、吊脚楼と呼ばれているが、実際は地形、地域的に様々な展開を示している。本論文は苗族の異なるサブグループの事例を示し、その形は漢化の影響を受けつつ、かつ地形的な影響を受けた展開を示しているが、その基本概念として、棟通りの一方向を聖なる方位としていることを明らかにする。方法として湖南省苗族住居の研究を下敷きとして、筆者が行った両地区住居の異同分析を行う。苗族は中国及びラオスに広く居住する少数民族であり、その集住地域として貴州省黔東南苗族・トン族自治州と湖南省湘西土家族･苗族自治州がある。この 2 地域は隣接しているが、この両地域に生活する苗族は 2 つのサブグループに分けられる。貴州省黔東南苗族・トン族自治州の苗族は黔東方言を話し自らをムーと呼び、湖南省湘西土家族･苗族自治州の苗族は湘西方言を話し、自らをコ・ションと称する（鈴木・金丸 1985: 23-25)。お互いの言葉の 3 割位がわからないという。

苗族の故郷が東方にあるとし、東側を聖地とする世界観を苗族の人たちは持っている。これは苗族の故郷が中原にあり、そこからの西遷を物語るとされる（鈴木･金丸 1985:15-17)。具体的な調査に基づいてこの観念を空間に対応させて考察しているものとして、「祭る場の変遷過程について」（土田・楊 2003: 282-284）がある。この内容は「炉（火塘）外側の中柱近くに祖先の位牌を供え、祭りの際には部屋の内に集まって、炉と中柱の間の hongghot (祖先の方位) に向かって祭祀を行った。」（苗族房屋住宅的習俗簡述　石如金）という民俗文献の提示とともに、湖南省湘西土家族苗族自治州鳳凰県龍角洞での調査から苗族の住空間特性について次の点を明らかにしている。

・200 年前の民家では堂屋両側の中柱はなく、「火塘」上の踏床天井もなかった。
・祭祀が行われなくなった 1980 年以後の民家は堂屋両側に中柱を立て、踏床天井を張った。
・以前はカミ・シモ方向が棟方向に並行しており、空間構成においては棟方向を連続させ重要視した。以後の空間構成は棟方向を分節することになった。
・内凹式（虎口、呑口）の入口は正面とともにカミとシモに分かれて入る側面の入口を持つ。

この土田･楊（2003）による湖南省湘西地区の調査結果を下敷きに、筆者は 2011 年に同じ湖南省湘西地区鳳凰県山江鎮 1) の調査を実施した。その結果次の点が明らかとなった。

・防御を意識した集落及び住宅の形
・石壁とこれと独立する木造構造
・炉と祖先を祭る祭壇を持つ。

・土間が基本で、炉と祭壇の間及び寝室は一段高い板床
・堂屋と側室の区分。
・内凹式入口を持つ。
・入口の対面に一段床を高くした寝室が一列に並ぶ。
・家造りの起点を持つ（家の中心）
この具体的内容を、事例を示しながら明らかにする。

2　湖南省湘西地区鳳凰県調査民家の概要

2.1　事例 1 苗王の家

苗族の王の住んでいた石造りの砦が現在山江苗族博物館となっており、王の末裔の龍文玉氏が館長として管理している。苗族の最後の王龍云輝が住んでいたところと説明される住居である。その住まい部分が博物館展示となっており、公開されている。これを図 1 に示す。

砦全体は両側に高い見張り用の塔（保家楼）が立つ石造りの堅牢な建物である。門を入ると前庭が広がり、さらに階段を上がって、執務室と住居部分からなる平面に至る。執務室が中庭を囲むように作られ、これに沿うように住居部分が付く。砦全体は西に向いて建てられている。住居部分は石の壁構造の内側に丸柱が立ち、中柱と板壁によって 3 つの間に区切られる。それぞれの間は対庁、正庁、対庁と呼ばれる。中央正面から入ったところが通路と呼ばれるところで土間である。その正面は 20cm 上がった板敷きで祭壇が設けられている。正庁部分土間中央には家の中心と呼ぶ小さな突起が床にある。

右側の対庁は板敷きで中央の中柱そばに先祖を祀る祭壇が設けられその前には炉が切られている。主面反対側の対庁には焚き口が 4 つある竈が設けられている。龍文玉氏の話によるとそれぞれの間の奥は寝室で右側の対庁から長輩房、長輩房、晩輩房と呼ばれており、晩輩房は年長者用の房という意味である。展示用に正庁奥には祭壇が設けられている。先祖を祀る祭壇と炉のある間側から年長者がベッドを置いて寝室としたという。ベッドのある場所は壁では仕切られず、ベッドとカーテンの広がる天蓋で構成されている。貴重品はベッドに作り付けの引き出しに収めるという。家の正面は西向きで、棟通りは南北軸となる。

館長龍文玉氏によると、炉の神を祀る際は巴代雄（苗老司）badaixiong (miaolaosi)を招いて祭事を行う。これに対して竈の神は家族だけで祀る。巴代雄は博識の人である。家の悪気を追い出すことを巴代雄が行う。人民解放軍が来たとき 5、6 人を殺した。以後不幸なことが続いたので、巴代雄を招いて占いをしてもらったことがあると呪いの様子を語る。また、馬革案村村長で、案内者である龍生権氏の話によると、西に面するのは山があって風水を考えての事である。龍を迎えるために開かれた方向に面するように配置する。祖先を祀るところは北に向いている。祖先は北から来たという伝承から、祖先は南面して祭壇が設けられる。山とか川の位置関係を見ながら家を建てる。龍が大切で、龍が来るように

という風水の考え方から来ている。各家の形は中央が凹んだ形。入り口の上に穴が空いていて、そこから来た人を観察し、敵だったらそこから攻撃する。苗族の民間信仰と漢族の風水の観念が複合している様子がうかがえる。

2.2　事例 2　龍金州家住宅

山江鎮黄毛坪村 1 組にある。父母とその長男夫婦と子ども一人の 5 人家族が居住する。この住宅の建立年代は不明である。丸柱で屋根を支える木造の構造に石壁が周囲を囲む（図 2)。柱は桁行き方向には 3900mm 間隔で立っており、梁行き方向は棟まで通る中央の柱から前後に 2400mm 位置に柱があり、さらに前方 2150mm、後方に 1050mm の位置に石壁が位置する。

屋敷全体が石の壁で囲まれており、家族の居住する母屋部分に並んで牛の飼育場（牛棚）であるとともに、農具を置く納屋と、母屋の前庭から構成されている。前庭の一角に豚小屋が設けられている。母屋部分は 1500mm ほど凹んで入口が設けられている。入口は西向きである。外部からの入口は牛の飼育場近くの中庭に設けられている。中は柱、板壁で 3 つの間に区切られており、正面が堂屋、その左右が寝室という呼称で呼ばれている。入口側の堂屋及び両側の寝室は土間で、東側は 200mm 上がった板床となり、3 間とも寝台が並ぶ。一段高い板床にしてあるのは、湿気を避けるためであるという。入口を入って右側の寝室の土間部分には炉が設けられ、ベッド周りから北側の石壁に沿って衣裳棚が並ぶ。この間は板壁で区切られており板壁沿いにテレビが置かれている。また、低座椅子が 15 脚用意されており、家族が集まる場所であり、また来客を招く場所でもあることがわかる。堂屋部分土間中央には家の中心と呼ぶ小さな突起が床に見いだせる。堂屋奥のベッドが置かれた場所は板壁で仕切られており、ドアで出入りするようになっている。板壁前は祭壇が設けられ、板壁にも様々な張り紙の装飾が施されている。入口入って左側の寝室には焚き口が 3 つの竈が設けられている。

入口の形は一段凹んだ呑口のかたちである。室内は正面堂屋で左右寝室が対称形に並ぶ漢式の間取りである。また堂屋正面に先祖を祀る祭壇が設けられる事も漢式であるが、入口右側の寝室に炉が設けられ、この場所が人の集まる形で使われていることは苗族の住居の空間概念を踏襲しているといえる。

2.3　事例 3　龍丙達家住宅

山江鎮馬革案村内に位置する住宅である。この住宅の建立年代は不明であるが、この村内で一番古いという伝承がある。馬革案村は周囲を石の壁で囲った集落で、集落の入口には砦形の門が設けられており、集落への出入りはこの門に限られる。集落内には風水樹の育つ林と防火用のため池がある。この近くに板状の石がとれる採石場があり、その石を使って屋敷、住宅の壁が形作られた。この屋敷は主屋と便所、穀物入れからなる付属屋で構成される（図 3)。建物、屋敷地を囲む壁はすべて石積みである。屋敷への導入部には木製

の門が設けられ、L 字型に曲がりながら中庭に入る動線となっている。主屋は南面し中央に内凹式入口が位置する。主屋の構造は屋根を支える柱を初めとする木構造であり、柱の外側に石積みの壁が回る形となっている。中央部の柱は 230×260mm 程の断面が長方形で角が隅丸である。すべての柱は敷石土台上に乗っている。梁行方向の 5 本の柱はほぼ 1700mm 間隔で並び、桁行方向には側門部分が 3200mm、堂屋部分が 3700mm、堂屋横の間が 3240mm、灶屋部分が 3900mm と桁行長さが異なる。

調査時点の 2011 年では夫婦 2 人すまいである。主屋の内凹式入口は中央とともに左右にドアが付く。室内は東側から側門、堂屋、灶（かまど）屋の並び順である（図 4）。炬燵の位置する間は呼称不明である。全室内の北側の一柱間分が入口から広がる土間より一段高く作られベッドが置かれた寝室となっている。堂屋部分で測ると土間より 210mm 高く、板床となっている。側門部分土間は堂屋境には板で仕切りが設けられ 120mm 高く作られている。

側門東側石壁に沿って衣装ダンスが並べられている。堂屋部分北側は板壁で仕切られており、その壁部及び手前に置かれた机が飾り壁と棚として設えられている。その机には祭壇とともにテレビが置かれている。堂屋北側の寝室は 3 面が板壁で仕切られており、入口のドアは側門側に設けられている。この室の天井には天窓が設けられ、真っ暗な室内に光を入れている。側門、堂屋土間には椅子が多く置かれ、人が多く集まることをうかがわせる。

堂屋西側の間にはコタツ、炊飯ジャーのあるテーブルが置かれている。コタツは椅子に座って使う形のもので、テーブルの高さの櫓に布団が掛けられている。南側にはプロパンガスコンロが置かれ、新しい熱源の調理場として使われている。

灶屋には 4 穴の竈、内井戸があり、この井戸前に地炉が位置する。北側の壁沿いは一段高い板間であるが、その上に穀物入れと思われる大きな木製の戸棚が置かれ、上や周りに笊、天秤籠、唐箕などの生活、生産用具が置かれている。

3 例の特徴を表 1 にまとめた。全部が平屋で吊り脚楼二階屋の形式がないことが特徴である。土田・楊（2003）が示した棟通りの軸に沿って聖俗の観念が空間に表れている事例が 2 例確認できる。入口は棟通りに沿った面の中央にある平入りの形あり、その中で入口が一段後退している内凹式の形が 2 例確認できる。表の項目以外の明らかな点は最初に示したとおりで、入口対面側に寝室が並ぶこと、家のへそとも呼べる中心があることである。寝室のゾーンは壁で間仕切られる例は少なく、ベッドとカーテン付きの天蓋で設えられているのが特徴である。家のへそは家の新築時に家人が行う儀礼である。

3　貴州省黔東南自治州調査民家の概要

筆者は 2005 年、2008 年、2011 年及び 2015 年の 4 回貴州省黔東南苗族・トン族自治州の西江鎮を中心として調査を行ってきた。その中で、いくつかの間取りを記録することが出来たので、その概要を示すとともに、湖南省鳳凰県との異同を考慮しながら分析を行う。

3.1　事例 4 董洪忠家住宅

西江鎮は一つの丘陵と川沿いの氾濫原に集落が広がり、東引、平寨、羊排、南貴の 4 つの行政地区に分かれている。ぞれぞれの行政地区はさらに 2 つの自然村からなっている。東引区は東引村と也通村、平寨区は白岩村と平寨村、羊排区は也東村と羊排村、南貴区は也好村と水寨村に分かれそれそれぞれの区内での通婚はタブーとなっていた。隣接する村の人との結婚はできないというように村人は語る。董家住宅は東引村にある。董住宅は 3 階建てで、1 階より 2、3 階の前面がせり出した吊脚楼形式である。

主な居住部分は 2 階で、1 階は豚舎、農業資材置き場、便所からなる。家は急な傾斜面上に建っており、1 階部分の後面は岩盤が露出している。住宅は山の斜面に沿って建っており、棟の通りは南西—東北を向いている。居室となる 2 階は梁行方向に並ぶ柱列とその間が板壁で間仕切る形で 5 つの間を形作っている。棟通りの柱を中心に前後に 2 本ずつ 1850mm の等間隔で柱が立つ。5 つの間は中央の堂屋と呼ばれる間が前後の間仕切りがなく通した一室となっており、その両側に臥室、居間としての役割を持つ取暖房と続く。柱列の桁行方向の間隔は堂屋の間が 3800mm その左右の室が 3400mm、さらにその両隣が 2250mm のスパンで作られている。すなわち堂屋を中心とした建築計画が読み取れる。外部からの導入は下の隣家の前を通って階段を上り、1 階さらに階段で 2 階への広い前庭に出る。正面入口は 2 階妻側に設けられており、これを入ると左側に 3 階へ続く内階段が目に入る。右側は物置として使用されている。ドアを開けてさらに進むと右側は板壁で仕切られた臥室、左側は家具が置かれ予備室として使用されている。堂屋は前後が 1 間となった広い空間で、南東側は手すりの付いたガラス窓が前面にはめられ、室内全体に光のさす明るい空間となっている。北西側奥の面は飾り棚、冷蔵庫、飲料水がおかれ、板壁には毛沢東を初めとする建国の偉人のポスターが貼られている。その板壁の北側隅には先祖を祭る祭具がつり下げられている。堂屋をさらに進むとテレビ、練炭ストーブ、ソファーが置かれた取暖房の室、その左側には臥室が設けられている。さらに進むと臥室と物置が並ぶ。取暖房の室からは後から増築されたと思われる厨房に続き、勝手口から屋外に出ることができる。また、取暖房の室には 1 階に降りる梯子階段が設けられており、床板を持ち上げて、階段を降りる形で使用する。

2 階から内階段を 3 階に上がると、屋根裏が見える吹き抜けになっており、階段のある室の反対側は生活用具を一時的に置く予備室的な場所となっている。また、ここから梯子が掛けられ屋根裏の物置へ出入りする場所ともなっている。

内階段の室からドアを開けて入ると天井の張られた室が 6 室廊下の両側に設けられている。南東側の部屋は客室であり、反対の北西側の部屋は収穫した米の貯蔵のための部屋が並ぶ。糧食の室は袋詰めされた穀物が積み重ねられ、中間の雑物間には農業資材が置かれ、放糧食の室には籾が室全体に打ち開けられている。廊下を出た室は吹き抜けで生活用具が雑然と置かれている。

2011 年時点の居住は董洪忠（1945 年生まれ）、李荣美（1949 年生まれ）夫婦だけである。

この夫婦には 2 男 1 女の子があり、長男が家を継ぐが、同じ東引村に新しい家を建てて別居している。同居している頃は 2 階の一番東北端の臥室を董洪忠夫妻が使い、その並びの臥室を長男夫婦が使っていた。2 階 3 階に客室がたくさん設けられているのは毎年 11 月の苗族正月や 13 年に 1 度の苗年の祭礼時に親族がたくさん集まるためであるという。

3.2 事例 5 楊夫林家住宅

楊夫林家は南貴区にある。西江の古老格にあたる、楊夫林氏（1927 年生まれ）は勉学に励み、「西江遡源」を著し、西江苗族の祖先からの移動経路、楊家の伝承をまとめた（楊夫林 2004: 17-27)。住宅は 2 階建てで 1 階中央（室名は不明）を入ると右手に臥室と台所が並びその奥は物置となっている。中央左手に臥室と物置が並ぶ。この臥室にはストーブと机が置かれ、居間であり、また接客の場として使用されている。その奥には物置が位置する。中央奥の階段を 2 階に上がると堂屋の部屋に入る、個々には祭壇が設けられている。堂屋左右には臥室と物置が並ぶ。堂屋祭壇に向かって右手の臥室は主人の書斎ともなっている。その奥の物置は穀物置場である。建立年代は不明であるが。2 階堂屋を中心にした、左右対称の計画である。夫林氏の話によると、以前は 2 階堂屋横の臥室が寝室兼書斎であったが、2011 年時点では近年 1 階に寝室を移し、書斎も 1 階に移したとの話であった。

堂屋の祭壇は西江苗族の先祖の祀り方をしているという。特徴は特定の先祖を示す人形の切紙を作り飾ることと、床に旅立ちのためのわらじを用意して置くことだと楊林夫氏は話す（写真 2)。

3.3 事例 6 建築中の住宅

2005 年西江鎮で住宅調査を実施した際、南貴区で建築中の住宅を調査した。間取りはすでに紹介しているので省略する（坪郷 2010: 282-283)。その間取りは 2 階建て左右対称で 5 間に区切られ、中央に堂屋が位置する形である。調査時に大工から建築の儀礼について聞くことが出来たが、特に上棟の儀礼時にはお酒、豚の血、米を棟木に供える。これらを赤い布で包み、棟木の中心から右側に縛り付けるという。右に付けるのは神が右側を好むから、右側が大切だということからだという。

3.4 事例 7 従江県丙妹鎮呉両水家住宅

バーサー苗寨に位置する住宅である。バーサーは苗族の中でも古い習俗を継承するグループとして知られている。調査は 2005 年に行った（坪郷 2010: 283-285)。住宅は木造の 2 階建てで、1 階は家畜の飼育場所となっている。家族構成と 2 階平面図を示す。

母親とその息子 3 人の家族が同居する形式であり、1 つの炉と区切られた寝室からなる部屋が 3 つ並ぶ。この 3 つの部屋の前面には幅の広いテラスが通る。

貴州省黔東南苗族・トン族自治州の民家 4 例を通して特徴をまとめたのが表 1 である。木造で、傾斜地に建つ住宅の特徴である吊り脚 2 階楼の形式が多く見られる。従って屋敷地

はほぼ住宅部分で占められている。入口は 1 例が妻入りであるだけで他は平入りであり、一段奥まった呑口の形式は見られない。間取りは棟通りに 4 間あるいは 5 間の間仕切りが設けられ、それぞれ前後の室に分かれているが、先祖を祀る祭壇が設けられる堂屋だけ前後通しの 1 室となる形式である。最後の事例 7 はこれらと異なり、長屋形式の間取りである。伝承は 1 例だけではあったが、家の正面（祭壇）に向かって右側部分が大切という伝承が残る。祖先の祭祀の形が残るが、漢式の影響と思われる堂屋形式の祭壇に変わる。

4　若干の考察と今後の課題

4.1　聖なる方向

隣接する湖南省湘西地区と貴州省黔東南苗族トン族自治州の苗族住居の構成の比較を行った。少ない事例ではあるが、異同が明らかとなった。結果は表 1 に示したように、屋敷取り、間取り型、入口の形式において違いがある。共通していることは堂屋と呼ぶ中心の部屋を設けここに先祖を祀る祭壇を設ける、あるいはその背面の壁を飾り聖なる壁が設けられていることである。棟通りの聖と俗の観念は湖南省鳳凰県の事例では確認することが出来たが、貴州省黔東南苗族トン族自治州の事例では確認することはできなかった。事例 6 での大工の話から正面に向かって右が大切、具体的には観音様（神）が右側を好むという言葉に棟通りの聖俗観念を見出しうるだけである。土田・楊（2003）では東側が聖なる方位と捉えられていたが、今回の事例では必ずしも棟通りが東西に向くものが見られず、その理由は風水も要因の一つであろうが、何よりも、狭隘な土地に建てることから、方位を選べないためといえる。祭壇に向かって右側を上、あるいは聖なる方位とすることが共通の観念としてあると指摘できる。

4.2　漢式住居形式の導入

いずれにも共通な点は堂屋を中心とした左右対称の間取り、堂屋正面、すなわち入口から向かって奥に祭壇を設ける形式が採用されつつあるということが明らかである。すなわち漢式の住居観念が浸透しつつあるということである。住居の型式は浸透しつつあるが、漢族の祖先祭祀とは異なる意識が散見される。

事例 4 董洪忠家住宅へは 2005 年、2008 年、2011 年の 3 回訪問したが、その都度堂屋正面奥の聖なる壁の飾りが異なっていた。2005 年は毛沢東の肖像が掲げられていた [2)]。2008 年からは周恩来を初めとする中国共産党重要人物の肖像画を飾るようになった。祖先を祀る作りものはその壁の右角の高い位置に掛けてある。先祖を祀る場所が棚を設けるように家具化されておらず、壁がその対象となっている。

4.3　先祖を祀る設え

西江鎮では先祖の祀り方として紙人と呼ぶ人形の切り紙を作り壁に貼る慣習がある。同様の慣習は他にも事例がある。西江鎮の旧市街の商家には先祖を祀る場所があり、その壁

に先祖の中で代表的な人物の紙人を人数分切り、貼り付ける。貼り付ける場所は白壁の床近くである。これは子供を授かること、子供の無病息災を先祖に祈るためで、同時に草の作り物を作りその場所にかける。これは毎年お盆の時期に行う。

また、西江鎮羊排地区李玉俤家では毎年、巫師[3]に紙人を作ってもらい、堂屋の決まった場所に貼ってもらったという。妻の宋慧氏（1964年生まれ）の話では紙人は神童と呼び、家の安全を守る、子供が健康に、商売がうまくいくようにとの願いが込められているという。その場所は堂屋の正面祭壇に向かって左側の敷居近くである。さらに神童は鬼のような存在で、地面の下から来た。そして人の上に立ってはいけないから、低い位置に貼る。貼る場所を決めたのは巫師だと話す。

これらの例は同じ紙人であるが、先祖を祀るだけというよりも家の継続、繁栄を祈るものであり、家の中に一定の場所が設定されていたといえる。

以上苗族の隣接する二つのサブグループについて住居形式、住居観の異同について分析してきた。立地する地形、住居の型式等異なることが明らかであるが、平入り住居が多く、その中で、正面右側が聖なる方向とする観念は共通しているといえる。また、先祖祭祀の型式は漢式の方式が取り入れられてきたが、古い形式として先祖だけにかぎらない、家の神といえる、家の継承、繁栄を祈る祭祀があり、その場として家の中に一定の場所が設けられていることを西江鎮の事例から明らかにすることが出来た。山江鎮の事例からは先祖を祀る炉と柱の段階から入口正面に飾り壁、祭壇を設けるまでの形式の重層がみられた。

これまでの調査においては明らかに不備な点があった。それは土田・楊（2003）が行った、空間語彙を漢語と苗語の両面から調査するということである。苗語の表現に古い形の伝承が内包されている可能性は高く、今後は留意して研究を進めたい。

追悼

湯川先生とは私が大学で教鞭をとる以前から民俗学について多くの教えを受けていた。大学で同僚として研究と教育をするようになってからは、その緻密な研究態度と骨太の信念にいつも敬服していた。湯川先生は東アジアにはあまり手を出したくはないといいながらも、ご一緒した中国では言葉を一生懸命学ぼうとされていたことを思い出した。全く言語を学ばず、形と技術から文化を語ろうとした私にはこの程度の分析しか出来ない。しかし、湯川先生からは「本当にあるの？」と言われた技術文化研究をしつこく続けていこうと思う。湯川先生はにこにこといつまでも見ていて下さるだろう。

［注］

1) 調査を実施した湖南省湘西地区鳳凰県の人口は350,195人（2010年湖南省統計）、貴州省黔東南苗族トン族自治州雷山県の人口は117,198人（2010年貴州省統計）である。

2) 董洪忠氏の妻李荣美（1949年生まれ）は毛沢東が来た時に握手をしたことを今でも誇りに思っている。その顕れが堂屋の肖像であるが、2006年時点では西江鎮でこのような事例を多く見ることが出来たが、その後は漢式の祭壇が設けられるように変わって行った。

3) シャーマンのことで、貴州省西江鎮では鬼師との呼称も採取された。社会的変化の中での名付けが推察される。先祖霊の祭祀や地霊の祭祀、道に設ける魔除けの呪いを行う例が確認された。湖南省山江鎮では巴代司、あるいは苗老師と呼ばれ、炉の神の祭祀を行い家の邪気を払う呪いも行うという話を龍文玉氏から聞いた。

[文献]

土田充義・楊慎初編, 2003, 『中国湖南省の漢族と少数民族の民家』中央公論美術出版.

坪郷英彦, 2010, 「苗族・トン族自治州少数民族の文化史源とその動態的保存の提案」『中国内陸部貴州省の持続的発展をめざして』所収 文一総合出版.

表1 調査民家の特徴

事例	住宅名称	地域	建物形式	屋敷取り	間取り	棟通りの方位	入口形式	カミ・シモ観念	変化
1	苗王の家	湖南省鳳凰県山江鎮	平屋	砦形式	堂屋中心三間取り	北-南	平入り	棟通り(聖なる東)	漢式南北軸の導入
2	龍金州家住宅	湖南省鳳凰県山江鎮	平屋	石塀による囲い	堂屋中心三間取り	北-南	呑口	棟通り(聖なる東)	漢式南北軸の導入
3	龍丙達家住宅	湖南省鳳凰県山江鎮	平屋	石塀による囲い	堂屋中心四間取り	東-西	呑口	不明	漢式南北軸の導入
4	董洪忠家住宅	貴州省雷山県西江鎮	3階建て吊脚楼	住宅部分のみ	堂屋中心四間取り	北東-南西	妻入り	不明	漢式南北軸の導入
5	楊夫林家住宅	貴州省雷山県西江鎮	2階建て吊脚楼	住宅部分のみ	堂屋中心四間取り	北-南	平入り	不明	漢式南北軸の導入
6	建築中の住宅	貴州省雷山県西江鎮	2階建て吊脚楼	住宅部分のみ	堂屋中心五間取り	不明	平入り	右側が神聖	漢式南北軸の導入
7	呉両水家住宅	貴州省従江県丙妹鎮	2階建て吊脚楼	住宅部分のみ	長屋形式	北西-東南	平入り	不明	不明

写真１　王の家右側対庁の先祖を祀る祭壇と炉

写真２　楊夫林家２階堂屋の先祖を祀る祭壇

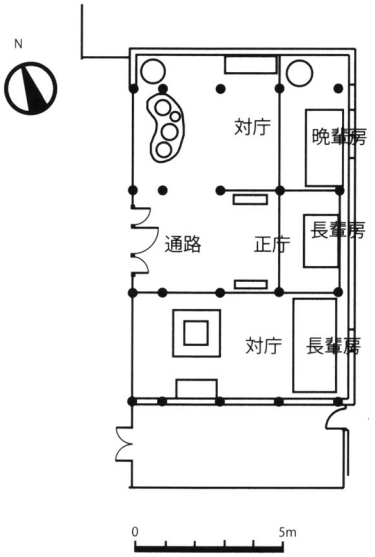

図１　苗王の家

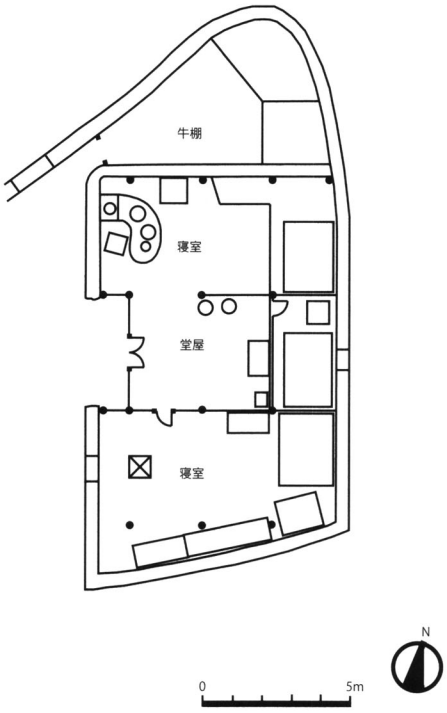

図２　龍金州家住宅

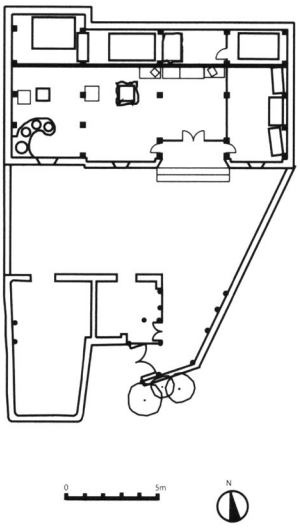

図３　龍丙達家屋敷取り

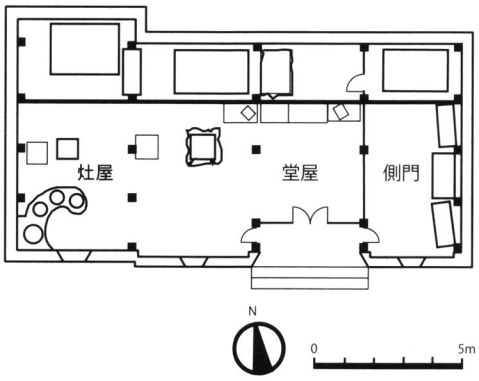

図４　龍丙達家住宅

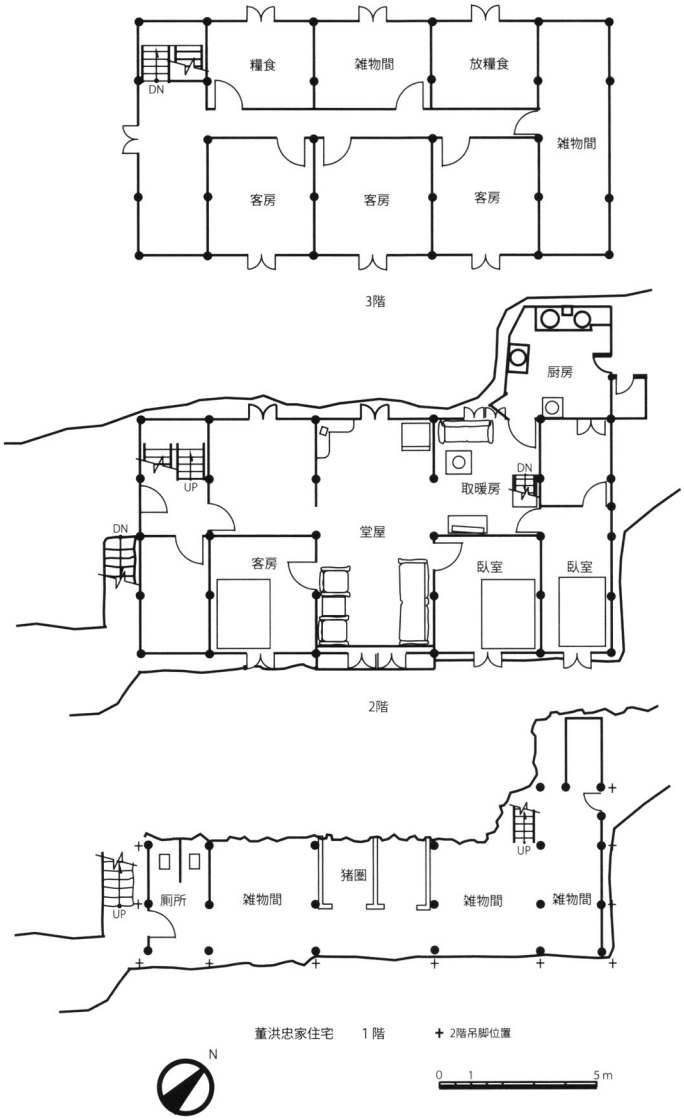

図5　董洪忠家住宅

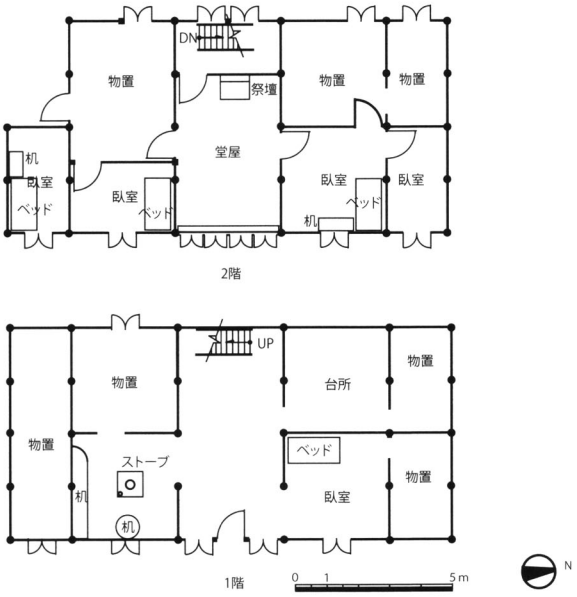

図6　楊夫林家住宅

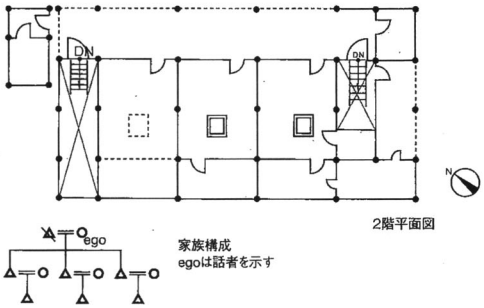

図7　呉両水家住宅

所属：山口大学教授
E-mail アドレス：hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp